



ST-800JN

ST-600S

ST-600N

ST-550VS

個性派の勢揃い STシリーズ

PRO IIのSTシリーズはいつでもそのひとつひとつが持味を發揮する個性派揃いです。プロII STシリーズの三つのポイント——これだけは知っておいて下さい。

■メープルワンピースネック

STシリーズのキーポイント、メープルワンピースネックは、メープル材の性質上ネジレ、ヤセが生じ易くネック作りで一番技術を要するものです。世界でも有数のシーズニング設備を誇る工場で作れるPRO IIのワンピースネックは、メープル材の選別、乾燥、管理が完璧なため、時がたつ程耐久性、精度に「違い」をみせつける信頼度の高いネックです。

■ボディとP.U.

「サウンド作りはボディから」このPRO IIの原則はSTシリーズにも貫徹されています。セン単板ボディ(ST-600, 800)にはバランス・レスポンスの良いSP-I、アルダー単板ボディ(ST-400, 500)にはパワフルでキレ、ノビの良いSP-IIをマウントし音作りをしています。

■ブリッジとトレモロユニット

ブリッジは全て安定度の良い11mmピッチブリッジを使用し、弦の支点となる駒一つ一つも丹念に仕上げられています。トレモロユニットは、09ゲージ用にセッティングされています。

■ST-800JはPRO IIのワンピースネック作りの卓越した技術が生んだハカラダ指板ネックを使ったプロ用モデル。ワインダーにもシャーラーを使用した完璧なギターです。ラッカー仕上げでナチュラル(N)とサンバースト(S)。他にメープルネック仕様もあります。¥80,000

ST-600は、セン単板ボディをウレタンブライトフィニッシュにしているためSP-Iもよりタイトでアタックの効くサウンドになっています。もちろんメープルワンピースネックでローズ指板仕様もあります。カラーはナチュラル(N)とサンバースト(S) ¥60,000

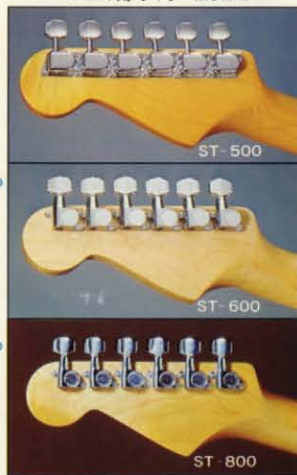
ST-500は、ローコストで完成度抜群の人気モデルです。アルダー単板ボディ・メープルワンピースネックはともにオールドタイプのラッカー仕上げ。SP-IIもメロウな味わいのあるトーンニュアンスがあります。カラーは、ナチュラル(N)、タバコブラウン(TB)、ローズ指板仕様もそれぞれあります。¥50,000

ST-550シリーズは二モデルあります。ST-550VSは、アルダー単板ボディを本格派のバイオリンフィニッシュにした洗いモデルです。又、ST-550R-OWは、ローズ指板のワンピースネックとオリンピックホワイトフィニッシュボディのジェフベックモデル。ともに、55,000円とは思えぬできばえです。尚、その他の仕様はST-500と同じです。¥55,000

ST-400の、アルダーボディとSP-IIの組み合わせから生まれるサウンドは、パワフルでブライト、ノビが良くワウラック上の本格派にひけをとりにません。カラーは、ナチュラル(N)、サンバースト(S)、それにローズ指板仕様のホワイト(W)があります。¥40,000

STシリーズのワインダー

ST-500用 ML-25C
ST-600用 ML-35C
ST-800用 シャーラー M6 mini



ST-550R-OW

ST-500TB

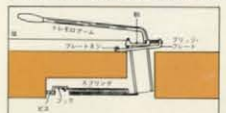
ST-500N

ST-400W

ST用トレモロユニットの調整

STシリーズの魅力の一つはなんと言っても大胆なアームプレイングができるという点にあります。PRO IIのSTシリーズはいつでも完璧に調整された状態で出荷しておりますが、プレイの前に下記のことから読んで再チェックしていただければ完全なアームプレイングが楽しめます。

STシリーズ用トレモロユニットは、シンクロナイズドトレモロと呼ばれ、トレモロユニットがボディから浮いているフロートイングシステムであるところが一番の特長があります。ですから、ST用トレモロユニットを上手に使いこなすコツは、第一にフロートイングの状態をいかにセットするかにあると言えます。そのポイントは、アームプレイングの動きを決めるプレートネジの調整と、弦の張力にあわせてスプリングの強さにあるのです。



①まず、弦をゆるめ、ブリッジプレートがボディに密着した状態にしてから、プレートネジをプレートより0.5~1.0mm位浮かします。あまり強くしめすぎたり、逆に浮かしすぎたりすると、動きが重くなったりガタついたりします。



②次に弦を正調にはって、フロートイングの状態を確認します。フロートイングの高さはボディとブリッジプレートとの間隔が2mm位が理想的です。



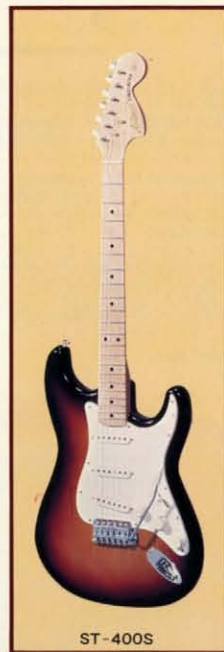
③弦を張ってもフロートイングしなかったり、高さが不足している場合、フックネジをゆるめてスプリングの張力を弱めます。それでもだめな場合はスプリングを一本減らします。通常、08ゲージで3本、09ゲージで3~4本、それ以上で5本のスプリングを張ります。(PRO IIの場合09ゲージの弦を使用し、4本のスプリングを張っています。)



④フロートイングがあまりすぎる場合は③の逆をして下さい。最後に実際にアームプレイングをして確かめて下さい。又、以上の調整を行なった場合、弦高調整とピッチ調整が必要になる場合もあります。アームははなした時に90度位自然に下がる程度にネジ込んで下さい。むりにしめつけるとネジヤマをこわしたり、アームが折れ易くなったりします。

アームプレイングでのチューニングの崩れについて

アームプレイングが一番困るのはチューニングの崩れです。しかし、弦の巻き方、弦抑え、ナットの手入れでこの宿命的とも言えるトラブルをプレイに支障のない程度までおさえることができます。そのためには、①弦は、ブレイクの弦で6回、巻線が4回は少なくとも巻きつけて下さい。又、この際、弦を何回か引っ張ってゆるみのおさまるまで巻きつけて下さい。②弦の支点となる弦抑え、ナットにフィンガーイーズなどを少量つけて、弦の動きをスムーズにさせて下さい。ナットの弦ミソはむやみに広げないようにして下さい。こうすればチューニングの崩れはかなり防ぐことができます。最良の状態にセットされたギターは最高の性能を發揮します。



ST-400S